

社長通信

No.003

ついこの間、「上半期ご苦労様」な～んて言ってたかと思いきや、大変です。

もう11月、秋真っ盛りです。

秋といえば、栗、栗といえば、モンブラン、モンブランといえば、“食べたい”、ん？
???連想がおかしな方へいってしまいましたが、やはり秋といえば、いろいろありますが、読書の秋でしょうかね～。(なんかムリヤリ?)

そこで、今回は、みなさんに、タマには本でも読んでもらおうかなあ～と思ひまして素敵な本をプレゼントしますので、ぜひ読んで下さいね。

まあ読めば、わかると思いますが、まずこの本を書いた『はなえ』さんとは、斎藤一人さんの、お弟子さんなんです。知らない人がいると困るので、改めて説明しますが、斎藤ひとりさんとは、日本一の高額納税者なんです。そして、ひとりさんには、10人のお弟子さんがいるんですが、そのお弟子さん10人全員が、高額納税者です。そう、はなえさんとは、そのお弟子さんのひとりなのです。

さらに、すごいのは、仕事の弟子ではなく、個人的な弟子として全員スタートした事です。だから、はじめはみんな、それぞれ自分の仕事を持って、OL だったり、教習所の教官だったり、喫茶店を経営してたりと。

で、たまに集まって、斎藤一人さんを中心に、こうすれば幸せに生きていけるって話を聞いてたんですね。

そしたらなんと、斎藤一人さんを筆頭に、全員が億万長者でしょ。

ありえます？

こんな偶然はないですよ？

そしたら、幸せになるには、コツがある、もしくは、幸せの方程式があると考えた方が自然なんじゃないでしょうか？

そう思った私の行動は、斎藤一人さんに会って、“話が聞きたい” でした。

これも、ありえない話でしょ？

日本一の高額納税者に会って、芸能人に会うようなものだし。

でも、いつも言ってるじゃん、夢は叶うって、思いはつながるって。

先日、ついにその思い叶って、斎藤一人さんと、酒飲みながら、直接話しをする事ができました。もう感激、感激で、家に帰ってきてからも、大ハシャギでしたね。

(酔ってたせいもあるかな?(^^ゞ

そこで、これまた、いい話を聞かせてもらったんですが、それは...

もしお話できる機会があれば、その時にでも。

チョットもったいぶってみました!(^^)!

そうそう、はなえさんの本の紹介でしたね。
いわゆる、はなえさんが、斎藤一人さんから聞いた、幸せの法則をまとめたのが、この本なんです。
信じる、信じないは、あなたの勝手。
そして、行動に移さなければ、何も変わらないんだよって。
私が、斎藤一人さんに会えたのは、公言して、すぐ行動に移したからでしょ。
その間、たったの数ヶ月。
そんなのムリって言うのは簡単。何もしないのは、一番ラクな作業。
グチッてばかりで、逃げて生きていくか、常にプラス思考で、前向きに生きていくか。

いつしかスラスラと、こんなセリフばかり言える、自分がコワイ(笑)

前置きが長くなりましたが、たった15分で読みきれますので、ぜひご一読を。

ただ私からひとつだけ申し上げておきたい事があります。
それは、この本は皆さんを理屈で納得させるために書かれているわけではない、ということです。たしかにページ数は少ないですし、すぐには信じられないかも知れません。でも、この本は、たとえ信じられなくても、この本に書かれていることを忠実に実行すれば必ず幸せになれる。その事を、みんなに伝えるために書かれていると思うんです。

私は、以前、講演会で、はなえさんにこの話を聞いた時、正直「え、それだけでいいの？」と、思いました。でもやってみたら本当に次々と、いいことが起こり始めたんです。

本文より一部抜粋いたします。

- 「はなちゃん、『不思議』という言葉の意味を知ってるかい？
不思議とは『なんでだろう』と『思』うことも、みんなで『議』論することもいけませんよということなんだよ」 -

この本に書かれていることは、不思議です。
でも本当のことなんです。ぜひ、読んでみて下さい！そして、やってみて下さい！
何のリスクも苦痛も伴いません。あなたにも必ず奇跡が起きます！！

付録で「つやこ49」というCDが付いてる、ツイてる本です。
顔にツヤ出して、人の幸福を願い、土にならず花になってキラキラ生きようね。
そしたら、きっとみんなも、『ツイてる、ツイてる』(#^.^#)

感動が人を育てる

仕事を通して様々な方々と出会う機会が多くありますが、伸びる人には1つの共通した特長があります。それは「素直」であるということです。

素直な人は常に心が開かれており、人の話を聞く心の状態が整っております。

そのような方は、人の話を聞いても、映画を観ても、スポーツや様々な体験などをしても、よく「感動」します。

あの伏見工高ラグビー部の総監督を務めておられる山口良二先生は、「感動を体験することで子どもたちは育っていく」と仰っておられます。

伏見工高のラグビー部では、ラグビーの練習だけでなく、身体障害者のキャンプにボランティアとして参加し、子どもたちの車椅子を押ししたり、手を貸したり、肩を貸したりして、人のお世話をする体験を経験させます。ある選手は「オレが世話した子は、車椅子から立ち上がることが出来ない子でした。何をしても、車椅子がなければ出来ないのです。オレは走ったり、パスしたり、スクラム組んだり、そんな事は誰でもできる何でも無い能力だと思っていた。オレが世話した子は、体が麻痺していて車椅子からも立ち上がることができないのでした。それを知った時、オレはどんなに恵まれている能力を与えられているかという事を初めて知りました。」と経験を話しました。選手の目からは涙がポロポロ頬を伝わっていきます。このような感動体験が、選手たちを更に育てていくことになります。

一般的に今の子どもたちは、何を聞いても「別に」とか「それがどうしたの?」というように、無関心、無感動のタイプの子どもの多いようです。大人の中にも、そのような人はおりますが…。

このような人は、素直さに欠けるため、感動する心が育たないのです。個人であれ、チームであれ、何かを達成した時の感動や達成感を味わわせることが、その人にやる気を出させる原動力のように思います。

- WMC 道心塾 10月号より -

そういえば、たまたま京都で、山口良二総監督にお会いした時は、感動したなあ。

なんか、オーラが感じられましたね。

たしかウチのは、一緒にツーショット写真まで撮ってもらってたっけなあ(*^。^*)

平成 17 年 11 月 7 日

有限会社 杉原建築設計事務所
代表取締役 杉原 吉朝

みなさんに、すべての良きことが、なだれのごとく起きますように！